

准教授に就任して



准教授に就任して

歯科麻酔学分野准教授 岸本直隆

はじめまして。2018年2月1日付で歯科麻酔学分野の准教授を拝命いたしました岸本直隆（きしもと なおたか）と申します。この場をお借りしてご挨拶させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は兵庫県東部に位置する丹波市の出身で、高校卒業までそこで過ごしました。その後、大阪歯科大学に入学し、大阪で一人暮らしを始めました。学生の間はヨット部に所属し、週末になると西宮のヨットハーバーにて泊まり込み、スナイプと呼ばれる2人乗りヨットの練習に明け暮れました。また家庭教師、カラオケ店、居酒屋など様々なアルバイトも経験し、大学以外の場所でも多くの友人をつくることができました。

大学卒業後は臨床研修歯科医として大阪府寝屋川市の小松病院 歯科・口腔外科に勤務しました。小松病院には歯科麻酔科医が在籍しており、口腔外科手術や小児・障がい者の歯科治療時の全身麻酔を行っています。そこで患者全身管理の重要性を強く感じ、歯科麻酔学に興味が出てきたことから、研修終了後、小谷順一郎教授（現 大阪歯科大学 名誉教授）が主宰されていた大阪歯科大学・歯科麻酔学講座に大学院生（大学院歯学研究科・博士課程）として入局いたしました。大阪歯科大学附属病院は大阪市中央区にあり、交通の便も良いことから多くの患者が来られており歯科治療および口腔外科手術時の全身麻酔、静脈内鎮静法など多くの症例を担当させていただきました。また入局2年目からは医科麻酔研修として、

大阪厚生年金病院（現 JCHO大阪病院）・麻酔科に1年間勤務し、様々な医科症例の全身麻酔を経験させていただきました。歯科では普段なかなか見ることができない全身の臓器に対する手術の麻酔管理を通して、麻酔学の基礎を学ぶことができました。大学院終了後は大阪歯科大学・歯科麻酔学講座の教員として2017年10月まで勤務し、臨床、研究、学生教育と本当に多くの経験をさせていただきました。

研究面では大学院入学後から、百田義弘先生（現 大阪歯科大学・歯科麻酔学講座 主任教授）の指導の下、脱分化脂肪細胞を用いた再生医療の研究に取り組んで参りました。脱分化脂肪細胞は皮下脂肪から天井培養法を用いて樹立可能な細胞であり、純度が高く、骨・軟骨・脂肪といった様々な組織の細胞へ分化する多分化能を有しております。われわれは脱分化脂肪細胞を自己組織化ペプチドやチタンファイバーメッシュなど様々なバイオマテリアルと組み合わせ、骨組織再生における有用性を評価してきました。また口腔外科手術時に採取した頬脂肪体より脱分化脂肪細胞を樹立し、同じく脂肪組織から樹立された脂肪組織由来幹細胞と比較して骨芽細胞分化能が高いことを報告しました。さらに脱分化脂肪細胞は骨髄間質細胞と比較して骨芽細胞分化能が高いこと、脂肪組織由来幹細胞と比較して軟骨細胞分化能が高いことなどを発表し、純度や多分化能の他に脱分化脂肪細胞の優れた細胞分化能に関して報告してきました。

研究活動の一環としてIADRなどいくつか国際学会に参加しました。また身近な先輩がアメリカに留学されていたこともあり、私自身も留学に対するあこがれが強くなってきました。当時唾液腺再生に興味を持っており、文献検索でMcGill UniversityのDr. Simon D Tranのグループから多くの唾液腺再生に関する論文が出版されていたこと、また2015年3月にボストンで開催されたIADRの抄録に彼らのグループの名前があったことから、思い切ってIADRの会場でお会いできないかという内容のメールを送りました。数日後Simonより丁寧な返信があり、IADRにはいかないが研究室に興味があるならSkypeで話をしようと言われてありました。英語には自信がなかったので正直びびっていましたが、せっかくの機会でしたので時間を合わせてSkypeで初のミーティングを行いました。かなり緊張していましたが、自分が今まで研究してきた脱分化脂肪細胞に関すること、McGill Universityの研究室に興味があり留学したいことをなんとか伝え、2015年9月に訪問することが決まりました。訪問した際に研究室を見学し、ボスであるSimonに直接会う機会を得ることができました。また研究室のメンバーに対しこれまでの研究内容を講演する機会をいただき、新たなcell sourceとして脱分化脂肪細胞にも興味を持ってもらえたことから留学を許可していただきました。そして2017年4月より1年間McGill University, Laboratory of Craniofacial Tissue Engineering and Stem Cellsへ留学するため、カナダ・モントリオールへ移住しました。モントリオールはカナダ第二の都市と言われる大都市ですが冬の寒さが厳しく、-20~-30度くらいになることもしばしばです。しかしながら、自然も多く特に夏場は気候に恵まれ、毎週末イベントが開かれています。特にモントリオール世界映画祭やモントリオール国際ジャズフェスティバルは有名で、世界中から多く

の観光客が集まります。慣れない海外での生活は苦勞も多かったですが、仕事面では唾液腺再生の専門家から直接研究の指導を受けることができ、プライベートでは家族・友人と旅行やスポーツ観戦など様々なレジャーを満喫し、人生において非常に貴重な経験となりました。

臨床、研究以外の活動としまして歯科麻酔学教育の普及活動をしております。2012年にAneStem（アネステム）というスタディグループを設立し、歯科医師、歯科衛生士、歯学部学生など歯科医療従事者に対する歯科麻酔学に関する教育を行っております。歯科臨床に携わる人々の全身管理、バイタルサイン、偶発症対応などに対する知識と技能を向上させ、安全・安心な歯科医療の普及を目指すことがAneStemのミッションです。これまで大学附属病院、地域歯科医師会、企業、開業歯科医院において80回以上歯科麻酔学に関するセミナーを開催し、受講者はのべ800人以上となっております。超高齢社会を迎え、歯科患者の多くが有病高齢者であるわが国の現状を踏まえ、今後も歯科麻酔学教育のさらなる普及を目指し活動を継続していきたいと思っております。AneStemの活動に興味がある方がおられましたら、いつでもお声がけください。活動の詳細はwebに掲載しております (<https://www.facebook.com/anestem2012/>)。

兵庫→大阪→モントリオールと移り住み、新潟に来て約2カ月が経過しました。まだまだわからないこと、戸惑うことも多いですが、前田健康歯学部長、瀬尾憲司教授、歯科麻酔学分野の先生方をはじめとして、多くの方々のサポートを受けて楽しく仕事をさせていただいております。この場をお借りして感謝申し上げます。まだまだ未熟者ではありますが、日々研鑽を積み、歯学部の発展に貢献したいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。